

### 3.2 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

本河川整備計画における河川工事は次のとおりである。

- ・ 設楽ダム建設
- ・ 霞堤対策
- ・ 河道改修
- ・ 内水対策
- ・ 耐震対策
- ・ 環境整備
- ・ 豊川流況総合改善事業

#### 3.2.1 設楽ダムの建設

治水及び水利用からの必要性の他、自然環境への影響及び地形・地質条件の制約、社会状況などを総合的に考慮のうえ、豊川上流の愛知県北設楽郡設楽町清崎（左岸）・松戸（右岸）地先に、洪水調節、流水の正常な機能の維持及び新規水資源開発の目的を有する多目的ダムとして設楽ダムを建設する。

表3.2.1 設楽ダムの概要

河川名	建設位置	型式	ダムの規模 (堤高)(m)	総貯水容量 (千 $m^3$ )	流域面積 ( $km^2$ )	湛水面積 ( $km^2$ )
豊川	左岸：設楽町大字清崎 右岸：設楽町大字松戸	重力式 コンクリートダム	約 129	約100,000	約 62	約 3

設楽ダムの洪水調節効果については、設楽ダム地点の計画高水流量1,490 $m^3$ /secのうち、1,250 $m^3$ /secの洪水調節を行うことにより、基準地点石田における基本高水のピーク流量7,100 $m^3$ /secに対して約1,000 $m^3$ /secの流量低減効果を見込んでいる。また、戦後最大の洪水に対しては550 $m^3$ /secの流量低減効果を見込んでいる。

流水の正常な機能の維持のうち、渇水時における河川流量については、牟呂松原頭首工（直下流）地点及び主要な取水地点における利水上の制限流量を適正に運用することにより、渇水時の河川流量を牟呂松原頭首工（直下流）地点において約2 $m^3$ /secから約5 $m^3$ /secに、大野頭首工（直下流）地点において水涸れ状態から約1.3 $m^3$ /secにそれぞれ流量増加させる。また、既得用水の取水の安定化については、これまでの実績利水安全度概ね1/4から、既設の利水施設と連携して計画利水安全度概ね1/10に向上させ、安定した取水を可能にする。

新規水資源開発については、東三河地域における水道用水と農業用水合わせて約1.1

m<sup>3</sup>/secの新規取水を可能にする。

水資源の開発にあたっては、効率的な水利用を図るために設楽ダムと豊川総合用水施設等の利水施設による河川流水の総合的運用を行う。

設楽ダムの建設では、ダムや付替え道路等の工事並びに新たに創出する貯水池の存在などによる直接的な改変や、河川の連続性の遮断等が、大気環境、水環境、地形・地質、土壌、植物、動物、生態系へ与える影響、並びに景観、人と自然の触れ合い活動の場の変化等を予測評価し、その結果に応じて回避、低減、または代償のための保全措置を講じる。特に、ネコギギやクマタカをはじめとした動植物の生息・生育環境に与える影響をできる限り回避、低減し、必要に応じ代償措置を講ずるよう配慮するとともに、水質についてはダム貯水池のみではなく、下流域を含めて配慮する。

また、設楽ダムの建設が地域に与える社会的影響を緩和するため、関係住民等の意向を十分配慮・尊重し、国、県、設楽町及び下流市町村等と連携して、水源地域の生活再建や地域整備が図られるよう必要な措置を講じるとともに、ダム周辺の開発計画・プロジェクトとの連携、調整を進め地域づくりを支援する。



設楽ダム建設予定地の状況  
(北設楽郡設楽町清崎、松戸)

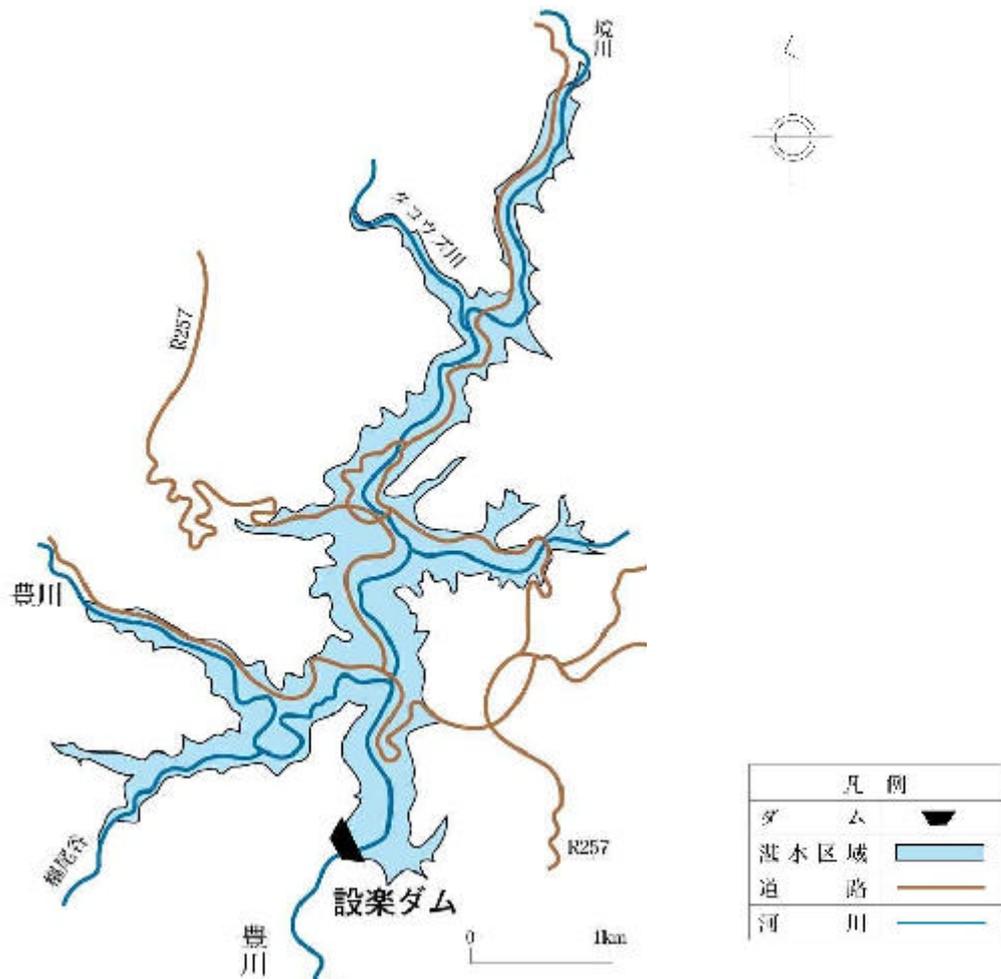


図3.2.1 設楽ダム湛水区域平面図



図3.2.2 設楽ダム建設予定地位置図